

ていばーく所蔵錦絵紹介（保永堂版③4）

東海道五拾三次之内 二川 猿ヶ馬場（愛知県豊橋市）

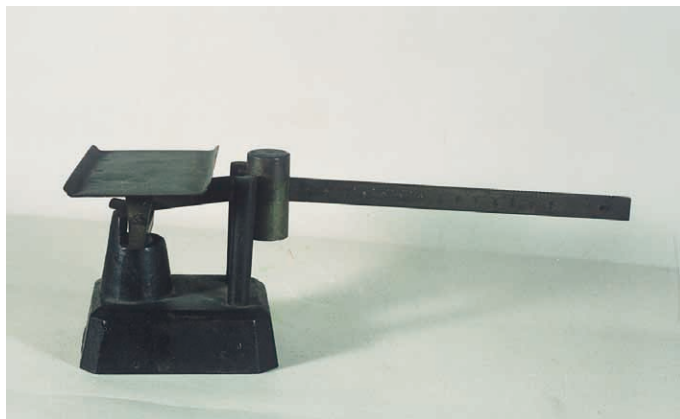


二川宿は遠江と三河の国境を越えてから三河側の最初の宿場ですが、この図は国境を流れる境川の遠江側にある猿が馬場という立場（街道で旅人が休息した所）から見た風景を描いています。

三味線を担いだ三人の瞽女（三味線の弾き語りをする盲目の女性芸人）が杖をたよりに、看板に名物かしわ餅と書いた茶店に向かって歩いています。寂寞とした小松原の黄昏の風景に感じられます。

ていばーく所蔵資料紹介④7

## はかり



郵便局では創業の時から郵便物の重さを量るためのはかりが必要でした。当初は、金銀や薬などを量る精密な竿秤など日本古来のはかりが用いられていたようです。

西洋式のはかりが全国に配備されたのは、記録によると明治7年6月からとなっていますが、局によってはもっと早く導入されたところもあるようです。

図は駅逓局の刻印のある西洋式の書状掛秤（上皿棹ばかり）で、明治10年代に郵便局で使用されたものです。

（錦絵/資料解説：附属資料館 井上卓朗）